

# コスモス 9月号

第69巻 第9号

◆宮柁ニカレンダ―(30) 九月の歌

たたかひを終りたる身を遊ばせて石群いはむられる谷  
川を越ゆ  
歌集『小紺珠』

終戦直後の九月、黒部谿谷で詠まれた思いは、コスモス創刊の言葉「みずからの生の証明を」に繋がった。証明の「証」は親鸞の寺に生まれた私にとって、死罪四人、流罪八人のうちの一人として冤罪を被った親鸞の選述の書「教行信証」の「証」に重なり重い言葉である。宮柁二もまた「行為と智識の乖離」(『山西省』後記)を生きなればならなかった。戦争と戦後の日本を見つめることで、歌の真と命の真を問いつづけ、証し続けた。結句の「谷川を越ゆ」には、深い内省ののちの決意がにじむ。

(橋 芳園)